

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	改善（カイゼン）推進事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	06	公・民パートナーシップによる構想実現と効率的、効果的行政運営（行政の充実）		主管課	情報政策・改革改善課			
施策	6-2	健全で効率的な行財政運営		主管課長	内 安広			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市職員	意図	トップダウンの行財政改革だけではなく、ボトムアップによる職員一人ひとりの改善（カイゼン）を推進することで、持続的な行政組織をつくる。
事業内容	①職員が全庁に共通する改善提案を実現する「職員提案制度」 ②各課における「カイゼン行動報告」の取りまとめ ③改善に関する情報をまとめた庁内報「カイゼン通心」の発行 ④「部局長の仕事と目標」に記載されている改革・改善事例の把握と共有			
事業開始から現在までの状況変化	主として、平成28年3月に策定した「行財政改革・改善プラン」により、事業を進めている。①については、平成28年度より提案受付を通年型にし、利用しやすい制度とした。平成30年度には、より円滑な審査のため、制度改正を行った。②、③、④については平成28年度より取りまとめを開始し、良事例の横展開を図っている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	職員提案件数	10	16	12	件	↑↑↑
②	職員提案採用件数	6	5	6	件	↑↑↑	職員提案制度により審査され、採用に至った提案の件数
③	カイゼン行動報告の件数	63	52	23	件	↑↑↑	各課からのカイゼン行動報告の合計件数
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果	整理整頓コンテストの実施により、職場カイゼンの推進及び職員の意識改革につながった。						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ①職員提案制度については、件数は減少したが、採用に至った割合は半数であり増加した。 ②カイゼン行動報告については、件数は大きく減少した。減少の原因はカイゼン行動報告の見直しを行ったためである。 ③カイゼン通心については、平成29年度よりスタートした各課の取組みをリレー形式で連載する「カイゼンリレー」でカイゼンに至った着眼点なども含めて事例を複数紹介した。
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)	2,059,500	2,013,600	1,977,600				
事業費(b)(円)							
うち一般財源							
職員給与と費(c)(円)	2,059,500	2,013,600	1,977,600				
人役・職員(人)	0.30	0.30	0.30				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	III 要改善（事業は継続するが、更なる改善が必要）					

(2) 事務事業の改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	・職員提案制度の見直しを図り、より円滑な審査が進むようにする。 ・改善運動に関する他市事例を研究し、より機能する仕組みにする。	③取組における課題(Check)	各部署でそれぞれに工夫してカイゼンに取り組む職員がいるものの、その職員自ら報告したくなるよう取りまとめの仕組みに改善の余地がある。
②H30に実施した取組(Do)	・職員提案制度実施要領の改正により、より円滑な審査が実現した。 ・自治体改善マネジメント研究会への参加により、通年で事例研究を行った。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	次期行財政改革プランの中で、より戦略的なマネジメントを掲げ、カイゼンを実践することで人が育ち、全庁的にカイゼンし続ける環境や仕組みを用意する。